

能代高等学校 中期ビジョン(5か年計画)
(令和3年度～令和7年度)

本校が目指す5年後の姿(具体的な目標)

1 学校の現状や課題

- (1) 生徒の進路希望の多様化と学力の多層化に対応する学習指導の確立
- (2) Will Project IIの深化と高大接続に対応する新たなカリキュラムの設計
- (3) 地域のセンタースクールとしての役割を果たす

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

- (1) 中学校卒業生数の減少
※能代山本地区内の卒業生の見通し 563人(R2.3月) → 480人(R7.3月)
- (2) 第七次秋田県高等学校総合整備計画に基づく特色ある学校づくり
- (3) 人口減少が加速する中、大学卒業後の若者定住に向けた行政と高校との連携

3 スクール・ポリシー

Will Project II

- 地域課題解決型探究活動
- キャリアデザイン型探究活動

～夢と志をはぐくむ学校を目指し、本校独自の教育プログラムを深化させる～

I 「グラデュエーション・ポリシー(目指す生徒像)」

高い志を掲げ、自らの目標達成やよりよい社会の実現に向けて、主体性をもって果敢に未来を切り拓く生徒

- ①本校生であることに誇りをもち、規律正しく活気ある学校生活を実践する生徒
- ②「確かな学力」や「実践的な力」の獲得をめざし、主体的に学びに向かう生徒
- ③豊かな人間関係を構築し、他者を尊重しながらともに学び、行動できる生徒
- ④自己の目標実現のため、心と体を鍛えつつ、不断の努力を継続できる生徒
- ⑤探究活動を中心に市民性や社会貢献の意識を高めつつ、次代を担う志をもった生徒

II 「カリキュラム・ポリシー(本校の学び)」

- ①主体的・対話的で深い学びを推進する授業の実践
- ②自ら課題を発見し、その課題を解決する探究活動の推進
- ③協働的な学習活動や1人1台端末の積極的活用、学習活動の振り返りを通じた個別最適な学びへの支援

III 「アドミッション・ポリシー(求める生徒像)」

- ①学習成績に優れ、主体的に学びに向かい、進路目標実現のために努力を継続できる生徒
- ②基本的な生活習慣が身に付いており、互いを尊重し共生できる心豊かな生徒
- ③探究活動や部活動等において、自主的かつ協働的に取り組もうとする生徒

4 5年間を通しての具体的な目標

分野	指 標	R 3 年度	目 標
進路	国公立大進学者数	76名	90名以上
	国・私立難関大学進学者 (医学部医学科を含む)	4名	10名以上
部活動	部活動加入率	96.9%	95%以上
	運動部・文化部 全国大会出場	7組	10組以上

具体的な取組等

(1) 基本的な生活習慣の確立

- ・すべての生徒と職員が参加するスクールマナー集会で、「規律正しく活気ある学校生活を実践する生徒」の共通理解を図るとともに、モラルを育む。
- ・ICTなどを活用し、スケジュール管理や学習活動の振り返りを記録させることで、時間や目標を意識して主体的に基本的な生活習慣を確立させる。

(2) 学力向上に向けた指導改善

- ・学習指導要領に従い、継続的に教育課程を見直す。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進や、進路別学習指導の一層の充実を図る。
- ・外部講師による授業改善研修や、学び合い活動の校内外研修を推進する。
- ・朝学習を基礎学力向上に活かし個別の学習指導の強化を図る。
- ・長期休業中の課外補習を1・2年生は20日程度、3年生は30日程度実施し、学力向上を図る。
- ・3年生に対する小論文・面接指導を全職員で行う。
- ・各学年で進路検討会や模試分析会を行い、生徒の学習状況の把握と速やかな学習指導の改善に努める。
- ・生徒面談を充実させ、学習を含めた高校生活全般の支援を行う。

(3) 探究活動の充実による課題解決能力の育成

- ・総合的な探究の時間を活用し、1年次に地域課題の解決をテーマとしたグループ別探究活動、2年次に個別探究活動を実施する。
- ・2年生全員を対象に、探究活動や将来の目標を踏まえたインターンシップを実施する。
- ・大学教員や地域行政の担当者を招いて課題研究のための講座を開き、探究活動を進めるに当たっての専門的な知識や技能を習得する。

(4) ICTの積極的活用

- ・1人1台端末を活用し、学習支援や成績管理・連絡調整やグループ別活動等への積極的な支援を図る。
- ・教科指導に関する研修会を開き、ICTを活用した教育活動を展開する。

(5) 文武両道に向けた支援

- ・部活動と学習活動の相乗効果を期待し、目標設定や活動方針の可視化を行う。
- ・休養日の設定や部活動時間の管理を徹底し、家庭学習時間の確保を図る。

～すべては生徒の幸せのために～